

守山まるごと活性化 議事要旨

イベント名： 第2回 「A歴史・伝統文化プロジェクト 歴史伝統文化部会」 会議

日時： 令和2年9月7日（月）午後7時30分から午後9時まで

場所： 玉津会館 会議室1

参加者： プロジェクトメンバー 7名 会館1名

開催結果

内容

1. 玉津の名の由来

- 角川日本地名大辞典25「滋賀県」には、玉津村（明治22年から昭和30年）は、赤野井、矢島、石田、十二里の4村が合併し成立。玉津村の村名は、古来の玉津荘の荘名による、と書かれている。また、守山市史でも、赤野井、矢島、石田、十二里の4村を作り、古い玉津荘の名にちなんで、玉津村と名付けたと記されており、かつてこの地に「玉津荘」があったことが考えられる。

☆「玉」や「津」の語源を見てみると以下のことが書かれている☆
「玉」...美しい、美しい石 + 「津」...人や舟、物資の集まる所、港
「玉」...最も美しい + 「津」...水の集まる場所、舟着き場

- 近江では、琵琶湖北部の姉川流域、湖東の湖岸部、南東部の野洲川流域で、弥生時代から玉づくりが行われており、玉づくりに使った道具が矢島町の寺中遺跡で見つかっている。
- 大津百艘船と言われるように、最も多く船の集まる港を、「大津」といい、その小型を「小津」と呼び、そのうちで港湾の形や状態が最も良いところを「玉津」と呼んだ。
- 江戸時代、この付近の「玉津」は「赤野井港」であり、当時は交通の要所として賑わった。
- この語源や、歴史等から考えると、古代の物資の集散地として賑わう美しい水の津（港）があり、荘園の呼び名を「玉津荘」としたのではないかと考えられる。

2. 調査内容のまとめ、発表方法の検討について

- 今年度に発表する必要があるのか。
 - 当初11月に開催される諏訪家屋敷まつりで発表する予定をしていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止されるので、発表を急ぐ必要があまりない。また、諏訪家屋敷は入場料がかかるので、パネルを掲示しても見に来る人は少ないのではないかな。
 - 見に来る可能性が低いのであれば、来年に発表を伸ばし、内容をもう少し詰めていく方がよいのではないかな。
 - 11月の発表するにしても、パネル作成を行うには時間が少ない。
 - 後世に残していく方法は、パネル、映像、パンフレットなどあるが、どのような方法で残していく方がよいのか考える必要がある。
- パネルやパンフレットを作成する方がよい・・・パネルは作成するが、パンフレットは予算と相談。
- パネルやパンフレットに残す場合には、文字のみでは見てもらえる可能性は低い。写真やイラストなどを追加する必要がある。

3. 次回について

- 今回は、各自治会で調査した資料等をまとめ、結果を報告してもらう。